

日本看護学教育学会第 36 回学術集会「優秀演題賞」受賞報告

織田千賀子先生（藤田医科大学）が日本看護学教育学会第 36 回学術集会（2026 年 8 月 29 日・30 日開催）において優秀演題賞を受賞しました。

今回の発表では、「看図アプローチ」という用語自体は演題名に入っていないませんが、内容としては、「見る」「読み解く」「つなぐ」に着目し、問題提案型・問題誘発型・問題発見型の授業デザインを紹介しています。これは「全国看図アプローチ研究会」が最近特に力を入れている研究テーマです。

以下、織田先生による報告です。

（文責：鹿内信善）



日本看護学教育学会第 36 回学術集会において、「術後患者の臨床判断に関連づけた多視点 3D 解剖教育システムの学習効果の検討」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。

本研究では、看護学生が解剖学的知識を術後患者の観察やアセスメントに活用できるよう、「多視点 3D 解剖教育システム」を用いた学習を、成人看護学実習（急性期）の病棟実習直前に学内実習として実施しました。

授業では、看図アプローチの手法を基盤に、問題提案型・問題誘発型・問題発見型の 3 つの問題型を取り入れました。解剖学的名称を確認することから始め、構造や位置関係を読み解き、そこから学生自身に生じた「なぜ？」を探究するよう、段階的に課題を構成しました。



その結果、学生の自由記述では、学内実習後に人体の構造や位置関係を捉える学びがみられ、病棟実習後には、その知識を観察・アセスメントや患者の状態・病態の理解に活用した内容がみられました。また、複数の解剖学的知識を関連づけて判断する確認テストでは、学習前、学内実習後、病棟実習後と得点が上昇しました。

今回の発表では、3 つの問題型による授業デザインと、学内実習後と病棟実習後にみられた学びを、「見る」「読み解く」「つないで使う」という学習過程として整理しました。

今回の発表をまとめる過程を通して、問題提案型・問題誘発型・問題発見型が、学生の思考を段階的に促し、解剖学的知識を臨床場面へつなぐ授業デザインとして活用できることを改めて実感しました。

（文責：織田千賀子）



おめでとう
ございます！



藤田医科大学 看護学科の魅力を発信する「FUJIKAN」ページが開設されており、その中で看図アプローチの手法についてもふれられています。織田先生への取材をもとにした記事がありますので、下記 URL からぜひご覧ください！

<https://www.fujita-hu.ac.jp/special/fujikan/manabi/contents01-2.html>

★ 看護学科の魅力 発信中「FUJIKAN」トップはこちら
<https://www.fujita-hu.ac.jp/special/fujikan/>

